

2022年登録ランドスケープアーキテクト（RLA）資格認定試験

二次試験（その1） 問題・解答用紙

注意事項

- ① 二次試験（その1）は、No.1、No.2の2問で、解答時間は2時間10分（130分）です。
- ② 問題用紙（下書き用紙含む）は、No.1が2枚、No.2が2枚で合計4枚です。
解答用紙はNo.1が1枚、No.2が1枚で合計2枚です。
- ③ 問題は全問必須ですから、2問すべてに解答してください。
なお、配点はNo.1が20点、No.2が20点で、40点満点です。
- ④ 解答用紙の全ページに受験番号をご記入ください。
- ⑤ 問題用紙、解答用紙はのり付けを切り放して使用してください。
- ⑥ 解答は、解答用紙に黒の鉛筆、シャープペンシル、またはペン等で記入してください。
下書き等に色を使用してもさしつかえありませんが、色を使った表現を解答した場合はその表現はすべて採点対象外となります。また、下書き用紙への記述はすべて採点対象外です。解答は解答用紙のみ記入してください。
- ⑦ 問題用紙の余白、下書き用紙は、計算等に使用してもさしつかえありません。
ただし、解答用紙には、計算等解答に関係のない記述はしないでください。
- ⑧ なお、二次試験（その1）は、No.1、No.2のそれぞれの採点結果を合計して評価いたします。
いずれかの採点結果が著しく低い場合は合格に至らない場合があります。
- ⑨ 試験終了後は、解答用紙をページ順に並べ、机の上に置いてください。係員が回収するまでそのままお待ちください。
- ⑩ 問題用紙は、試験終了時刻まで在席した方のうち、希望者に限り、持ち帰りを認めます。
途中退席した場合は、持ち帰ることはできません。

No. 1 土地利用ダイアグラムを作成しなさい (配点：20点)

■出題テーマ

住民から来訪者まで誰でも楽しく歩き回れる、賑わいにあふれた街づくり

■設問

- ・計画対象地は、地方中核都市の一部で、海に面した低地面と中央を流れる河川を中心に市街地が広がっている。
- ・計画対象地では、駅前と漁港周辺で再開発が計画され、当該都市の「歩きたくなる（ウォークブル）街づくり」構想により、「山・川・海の自然や歴史的資源の保全・活用」、「生活環境と結びついた賑わいの再生」を柱とした街づくりを、多様な関係者と連携して推進していくこととしている。
- ・こうした状況を踏まえ、次に示す計画地の現状と現況図を読み解き、解答用紙に、出題テーマを踏まえた各種計画の方針などを記述するとともに、方針に沿った土地利用ダイアグラムを作成しなさい。

設問1. 拠点となる駅北側と漁港周辺の再開発の方針（1項目以上）と整備内容（3項目以上）について、住民・来訪者・観光・交流・定住などの視点を踏まえて記述しなさい。

設問2. 地域の貴重な自然環境を保全しつつ街づくりに活かす自然環境保全・活用ゾーンを設定・図示（2ヶ所）しなさい。また、それぞれの保全方針と活用方針（各1項目以上）について記述しなさい。

設問3. 住民や来訪者が歩きたくなるような街づくりのメインとなる歩行ルートを、地域の資源や施設を考慮しながら設定・図示（3ヶ所）しなさい。また、それぞれの起終点等と整備方針（各1項目以上）、整備内容（2項目以上）について記述しなさい。
また、メインとなる歩行ルートを補完し、街中の回遊性を高めるような回遊ルートを設定・図示しなさい。その際、設定した自然環境保全・活用ゾーンとの連携も考慮すること。

設問4. 街中の回遊性を高めるため河川に舟運ルートを導入し、その乗船場を設定・図示しなさい。

■計画地の現状

1. 駅北側と漁港周辺の状況

- 鉄道駅は通勤通学の他、週末には近隣圏からの観光利用があるものの、駅舎等は老朽化し、駅前には人の滞留空間もないことから、駅北側では大規模な再開発が予定されている。
- 漁港は現在、荷揚げ・荷捌きの倉庫が立ち並ぶ他、古い飲食店がある程度で、街の将来像を見据えた再開発を進めることとなっている。

2. 市街地の状況

- 中央の河川の右岸側には旧市街が発達し、商店街や稠密な住宅地、寺社などが集まった特徴ある景観を有した地域などが混在する。全体に若年層の流出と高齢化が進み、商店街でも空き店舗や空き地が目立つ。
- 左岸側は、幹線道路に沿って市役所などの公益施設が集積した地域や、商業施設の建設予定地など、新市街地が形成されつつあるが、田畑も混在している。商業施設建設予定地では、周辺に新築マンションも建ちはじめ、幼保施設や公園の併設なども検討されており、若年層の定住化促進が目標となっている。

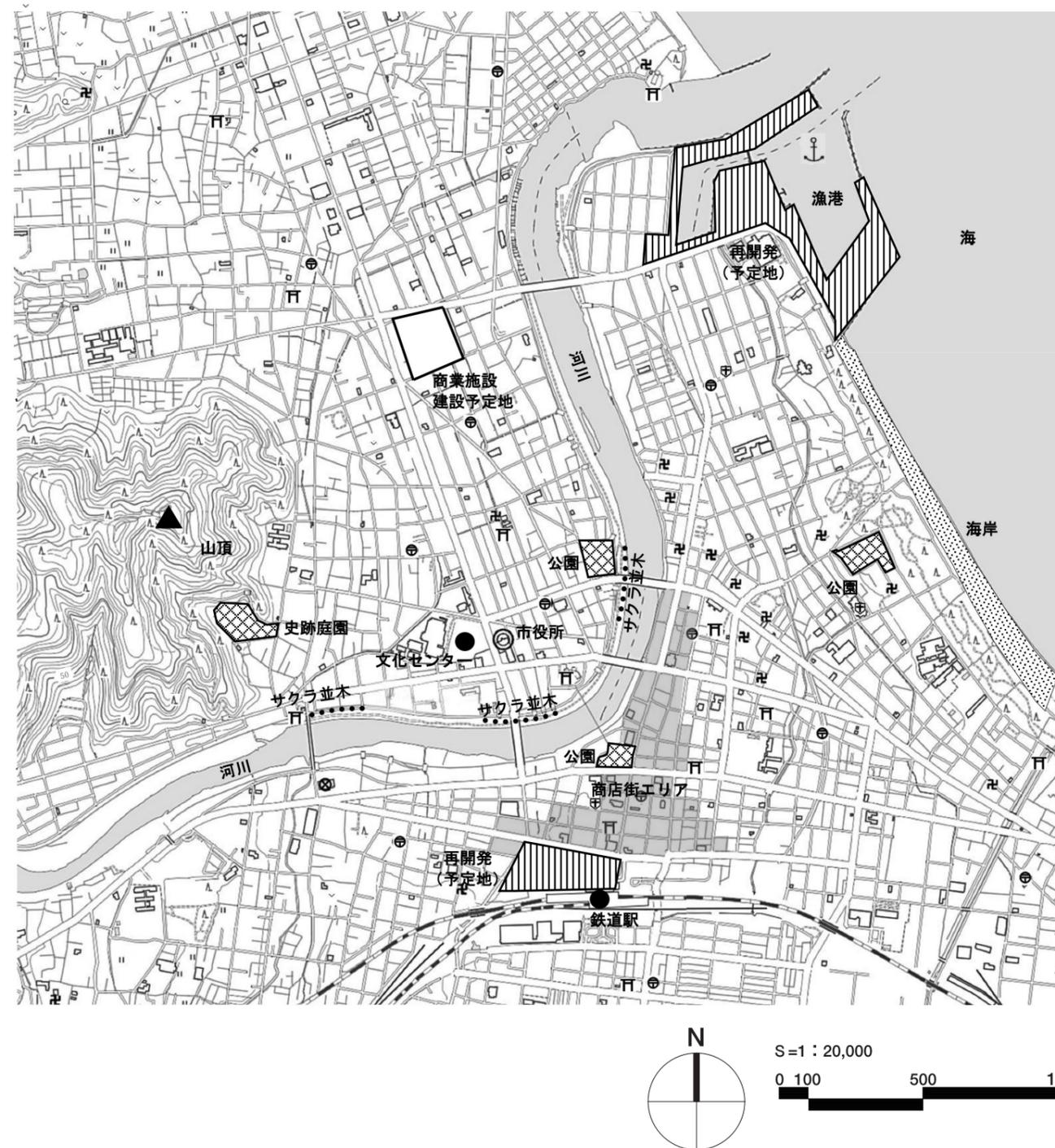
3. 自然の状況

- 市街地内には街路樹や公園が少ないが、中央河川の左岸側にはサクラ並木が点在している。
- 市街地の西にある山は、街のシンボルとなっているが、山頂までの登山道や山頂の眺望地点の保全・活用は十分に講じられていない。また、山腹の樹林は、林業の衰退により十分な手入れが出来ていない。
- 山麓の市街地側には、江戸時代から続く史跡庭園があり、観光スポットとなっている。
- 旧市街地の東側には、美しい砂浜が広がり、隣接する松林と合わせて「白砂青松」の景観が広がっているが、観光資源としての施設整備が乏しく、また、松林の衰退が懸念されている。

■解答における留意事項

- 記述する解答は、それぞれに示された項目数以上の解答を、簡条書きで枠内に収まる範囲にまとめること。
- 土地利用ダイアグラムに図示する解答は、凡例を参考に表示し、ルートやゾーンの番号を添えること。
- 土地利用ダイアグラムは、わかりやすい表現を心がけること。

■現況図



No. 1	土地利用ダイアグラム	1	RLA 資格認定試験 Registered Landscape Architect
	問題用紙	2	

1. 駅北側と漁港周辺の再開発の方針（1項目以上）と整備内容（3項目以上）について記述しなさい

駅北側	再開発の方針	
	整備内容 (3項目以上)	
漁港周辺	再開発の方針	
	整備内容 (3項目以上)	

2. 自然環境保全・活用ゾーン（2ヶ所）の保全方針と活用方針（各1項目以上）について記述しなさい

ゾーン ①	保全方針	
	活用方針	
ゾーン ②	保全方針	
	活用方針	

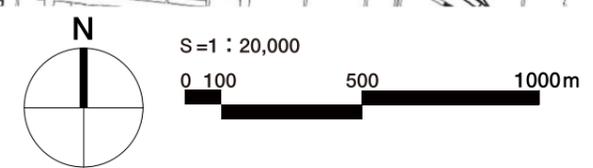
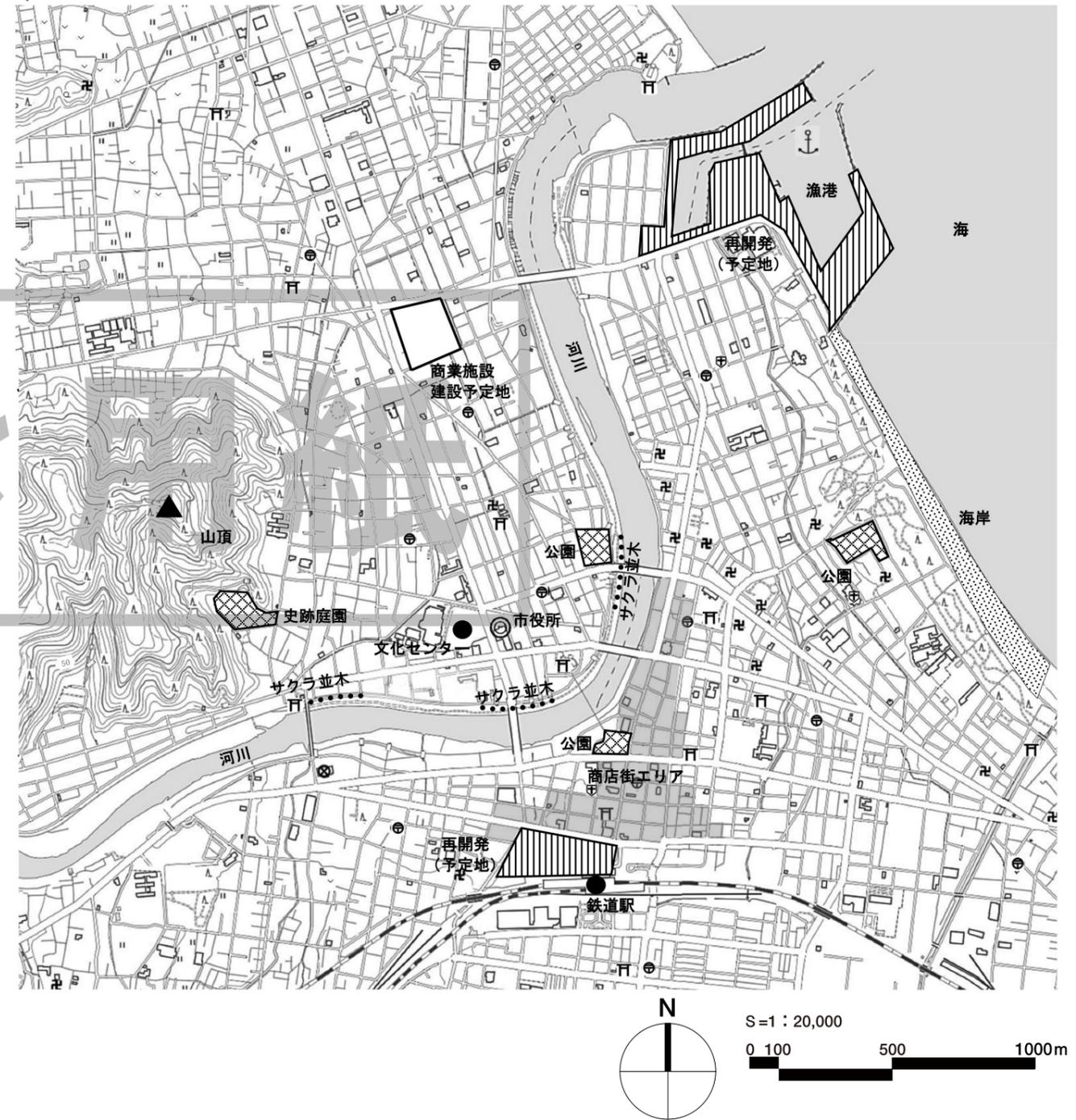
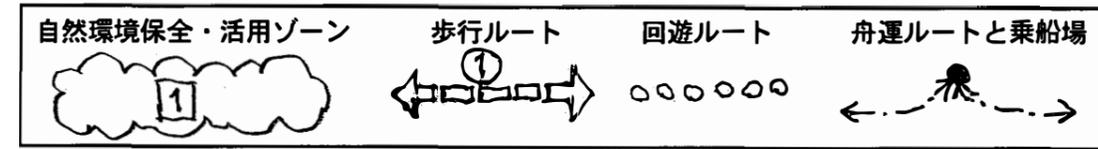
3. メインとなる歩行ルート（3ヶ所）の起終点等と整備方針（各1項目以上）、整備内容（2項目以上）について記述しなさい

ルート ①	起終点等 整備方針	
	整備内容 (2項目以上)	
ルート ②	起終点等 整備方針	
	整備内容 (2項目以上)	
ルート ③	起終点等 整備方針	
	整備内容 (2項目以上)	

4. 土地利用ダイアグラムの作成

設問2、3、4で示された「自然環境保全・活用ゾーン」、「歩行ルート」、「回遊ルート」、「舟運ルートと乗船場」を、下記の判例を参考に図示し、土地利用ダイアグラムを作成しなさい。

ダイアグラム凡例



No. 2 敷地計画図を作成しなさい

(配点：20点)

■出題テーマ

「公園保育所」を設置した地域コミュニティの核となる公園の拡張計画

■設問

計画対象地は、大都市通勤圏の鉄道駅から徒歩圏の住宅地に立地し、歴史ある神社及びその参道と一体的に整備された既設の都市公園に新たに加えられる、面積約 8,000 m²の市営施設の跡地である。

本計画は、この跡地活用策として、地域の保育所不足解消のための認可保育所の設置による、子育てを通したコミュニティ醸成と、公園としての魅力向上を目的とした公園の拡張を行うものである。

以下の設問について解答用紙に記入しなさい。

設問1. 敷地条件を踏まえて、占有施設である保育所とその付帯施設を平面図に配置しなさい。

設問2. 敷地条件を踏まえて、計画条件に示す各種広場及び園路、その他施設を、平面図に配置しなさい。

設問3. 上記の計画で配慮した事項、計画条件で指示のある事項について、その配慮した点を簡潔に記述しなさい。

■敷地条件

- 計画対象地北側は、まちのシンボルである神社の参道に接している。また、東側にも松並木と一体となった旧参道（道路）が位置し、鉄道駅からの参拝客の通行も見られる。
- 敷地の東半分は未整備の平坦な広場状の土地で、斜面林により西側の台地上の敷地と既設公園部分と分断されていることから、利用においてその解消が求められている。
- 敷地東側の平坦地と西側の台地上敷地との高低差は約3mで、斜面林は一部裸地となっている。台地上からは、南西側方向に海への眺望が楽しめる。なお、この斜面林は、地域景観を形成する重要な緑となっている。

■計画すべき項目

1. 保育所（占有施設）

- 平屋の認可保育所で、規模、間取りは解答用紙に示したとおりであり、一部には地域のためのコミュニティ施設が併設されている。なお、保育所建物の表現は建物輪郭線と出入口を示す記号のみでよい。
- コミュニティ施設は以下の「街かど広場」から直接出入りできる位置に、保育所園庭（幅12m×長さ24m）は以下の「斜面の遊び場」と隣接させ、かつ園児による住宅地に対する騒音に配慮して配置すること。
- 園児の送迎や職員の通勤は徒歩又は自転車を想定し、送迎スペース、駐輪場（計15台、0.6m×1.9m/台）、来客用駐車場（計2台、2.5m×6m/台）を設けること。
- 保育所は関係者以外の侵入を防止するためのフェンス類と門扉を設置すること。フェンスは、保育所棟と園庭を含めた保育所全体を囲むように配置し、駐車場と駐輪場はフェンスで囲む必要はない。

2. 街かど広場

- 神社参道や東側旧参道の歩道空間と一体的にマルシェや縁日などを開催できる面積約800m²以上の広場を設けること。なお、広場内には、緑陰を提供する植栽と休養施設を適宜配置すること。

3. 斜面の遊び場

- 斜面林の裸地となっている部分を利用して、斜面の上部と下部を含めた子ども（保育所園児の利用も想定するが、地域の幼児、小学生のための利用も想定）のための斜面の遊び場を計画すること。
- 斜面の遊び場は面積約400m²を確保し、その範囲を平面図に点線で示すこと。

4. 園路等

- 公園内各施設、外周道路、神社参道を有機的に結びつけ、回遊動線となる主園路（園路幅員は2m以上）を計画すること。なお主園路は、斜面林内を經由してよく、必要に応じて階段を入れてもよい。
- 計画対象地の隣接地の状況を考慮し、歩行者の安全を確保するために、歩道状空地（幅員2.5m以上）を計画すること。
- 主園路は管理用車両の通行も考慮すること。ただし、台地上部は既設公園側からの車両進入が可能であるため、斜面林内の園路は車両の通行を考慮する必要はない。

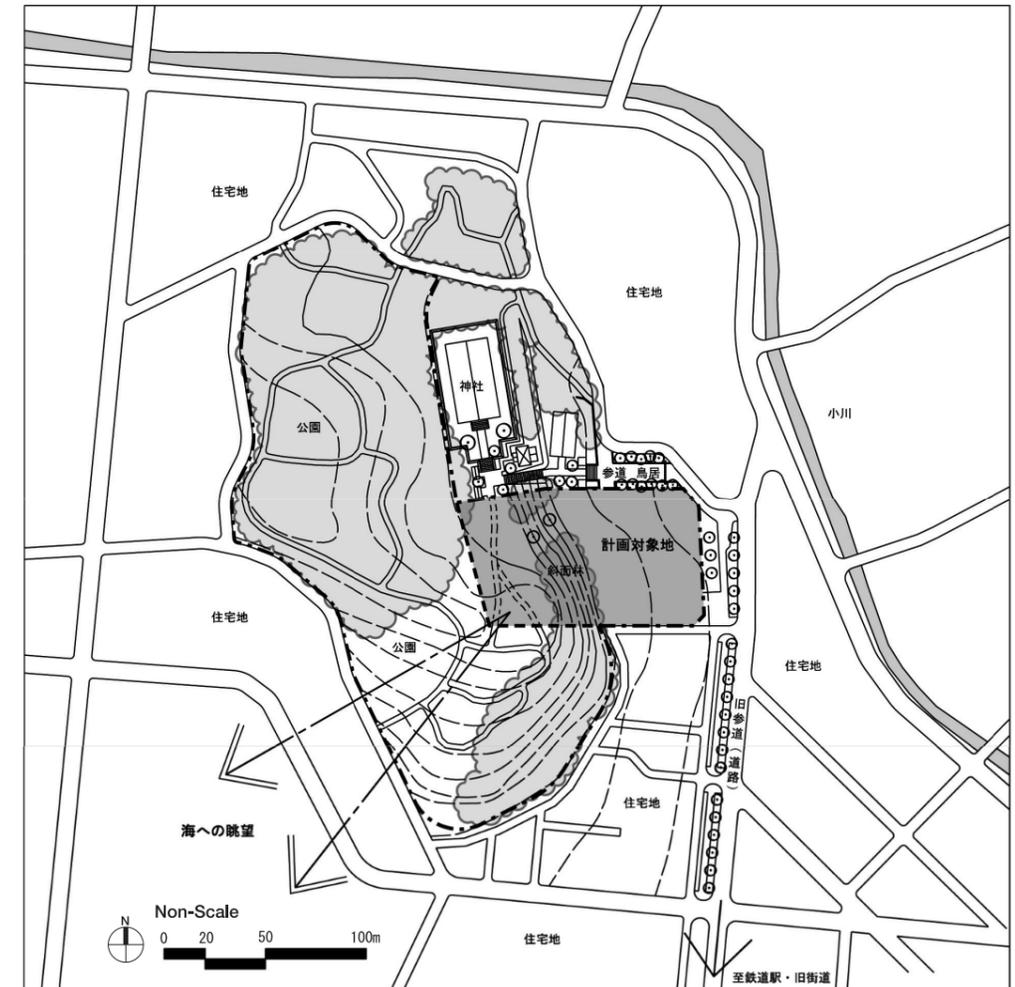
5. 植栽、その他

- 神社参道や公園、地域の景観を補完するための植栽を行うこと。
- 海への眺望を楽しめ、公園利用者の休憩所としての利用にも配慮した場所に四阿を計画すること。
- 花壇、ベンチなどの休養施設を適宜配置すること。

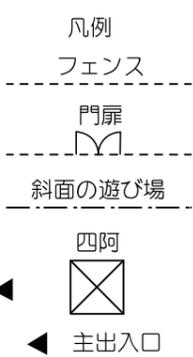
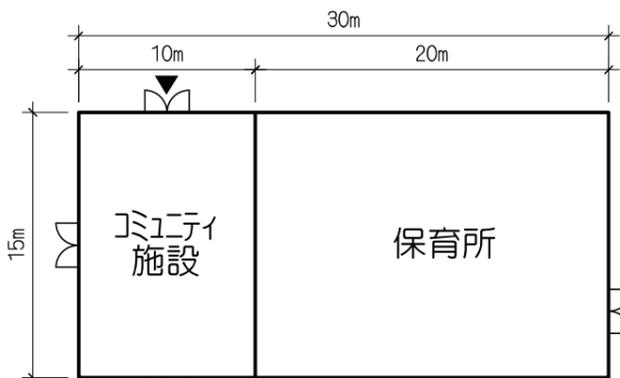
■解答における留意事項

- 計画施設には各施設名を表記すること。植栽樹種の表記は不要である。
- 凡例に表記のない施設は、その概要が分かる程度の表現とし、必要に応じて名称を記入すること。

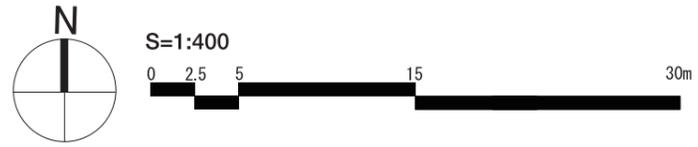
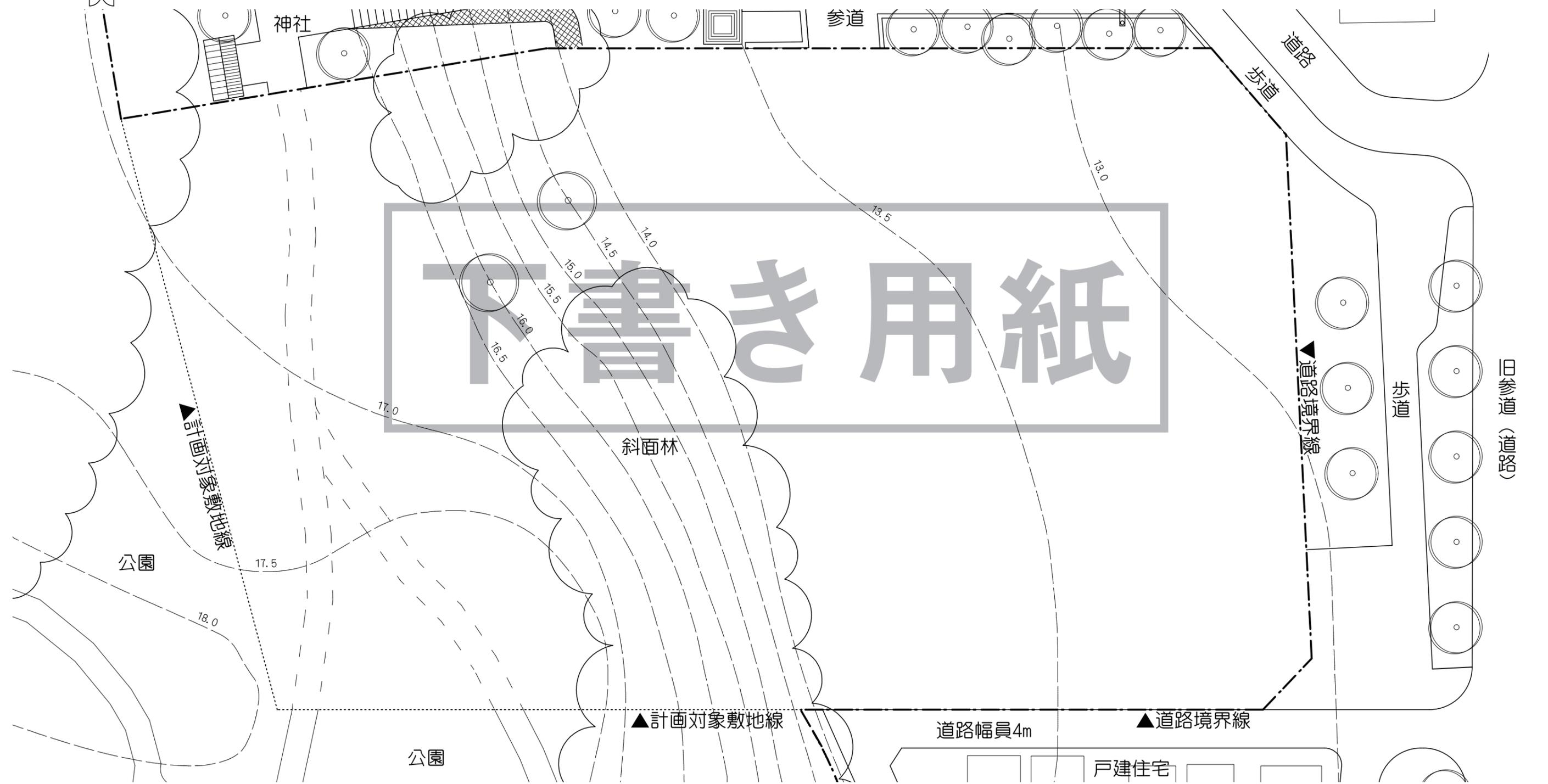
■敷地周辺図



No.	敷地計画	1	RLA 資格認定試験
2	問題用紙	2	Registered Landscape Architect



計画について配慮した事項



No. 2	敷地計画	2	RLA 資格認定試験 Registered Landscape Architect	解答用紙ではありません
	問題用紙(下書き用紙)	2		

1. 駅北側と漁港周辺の再開発の方針（1項目以上）と整備内容（3項目以上）について記述しなさい

駅北側	再開発の方針	
	整備内容 (3項目以上)	
漁港周辺	再開発の方針	
	整備内容 (3項目以上)	

2. 自然環境保全・活用ゾーン（2ヶ所）の保全方針と活用方針（各1項目以上）について記述しなさい

ゾーン ①	保全方針	
	活用方針	
ゾーン ②	保全方針	
	活用方針	

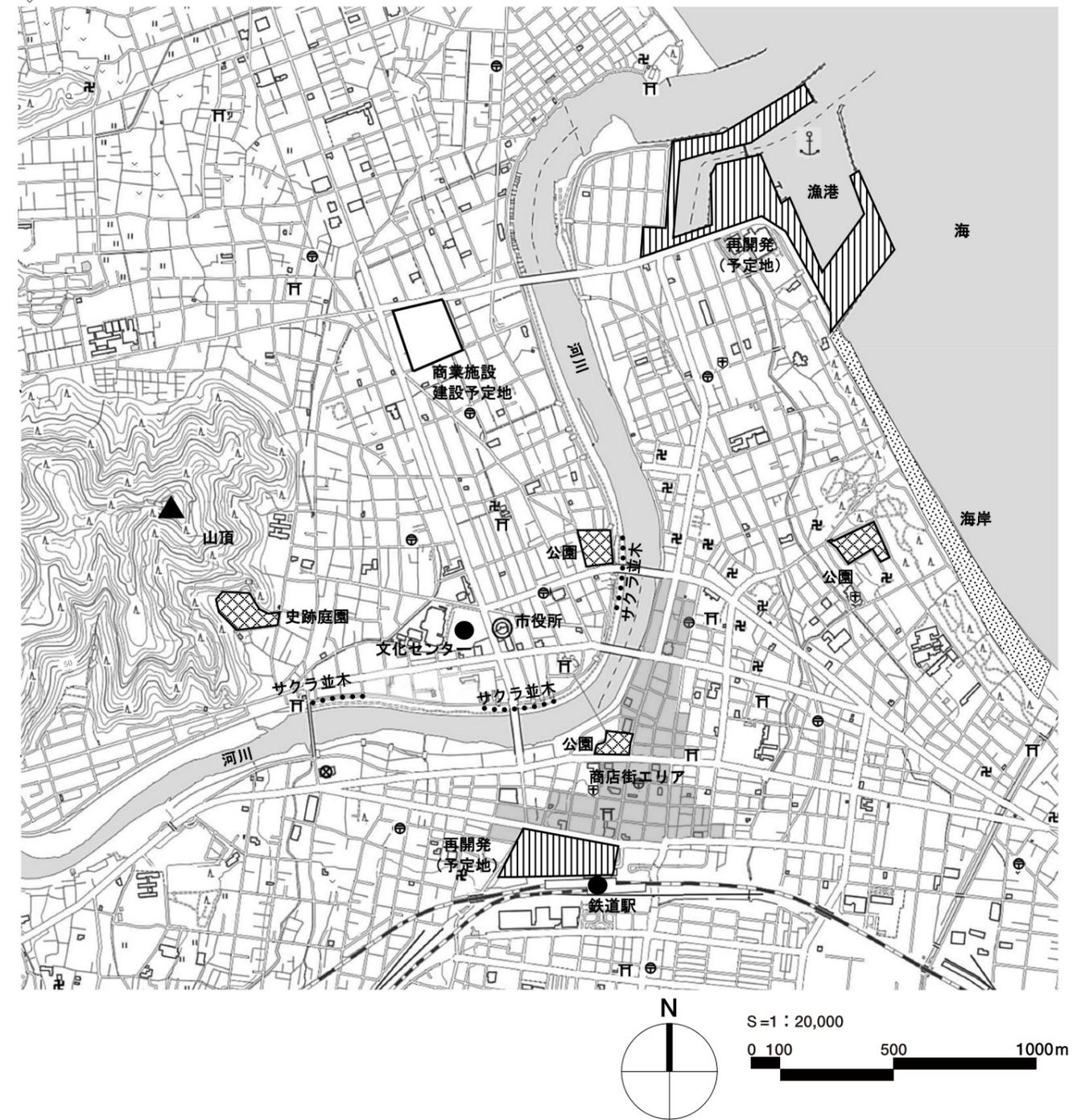
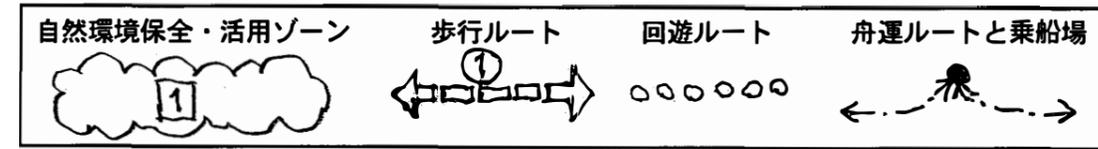
3. メインとなる歩行ルート（3ヶ所）の起終点等と整備方針（各1項目以上）、整備内容（2項目以上）について記述しなさい

ルート ①	起終点等 整備方針	
	整備内容 (2項目以上)	
ルート ②	起終点等 整備方針	
	整備内容 (2項目以上)	
ルート ③	起終点等 整備方針	
	整備内容 (2項目以上)	

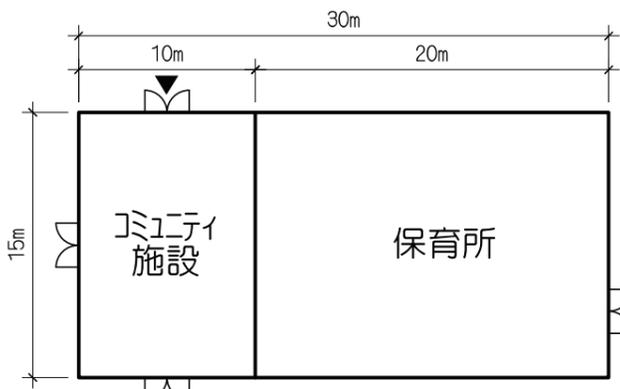
4. 土地利用ダイアグラムの作成

設問2、3、4で示された「自然環境保全・活用ゾーン」、「歩行ルート」、「回遊ルート」、「舟運ルートと乗船場」を、下記の判例を参考に図示し、土地利用ダイアグラムを作成しなさい。

ダイアグラム凡例

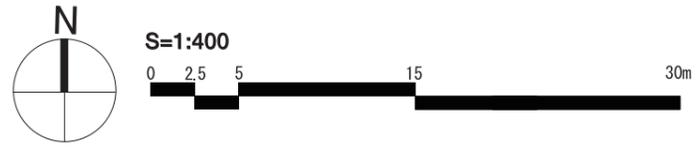
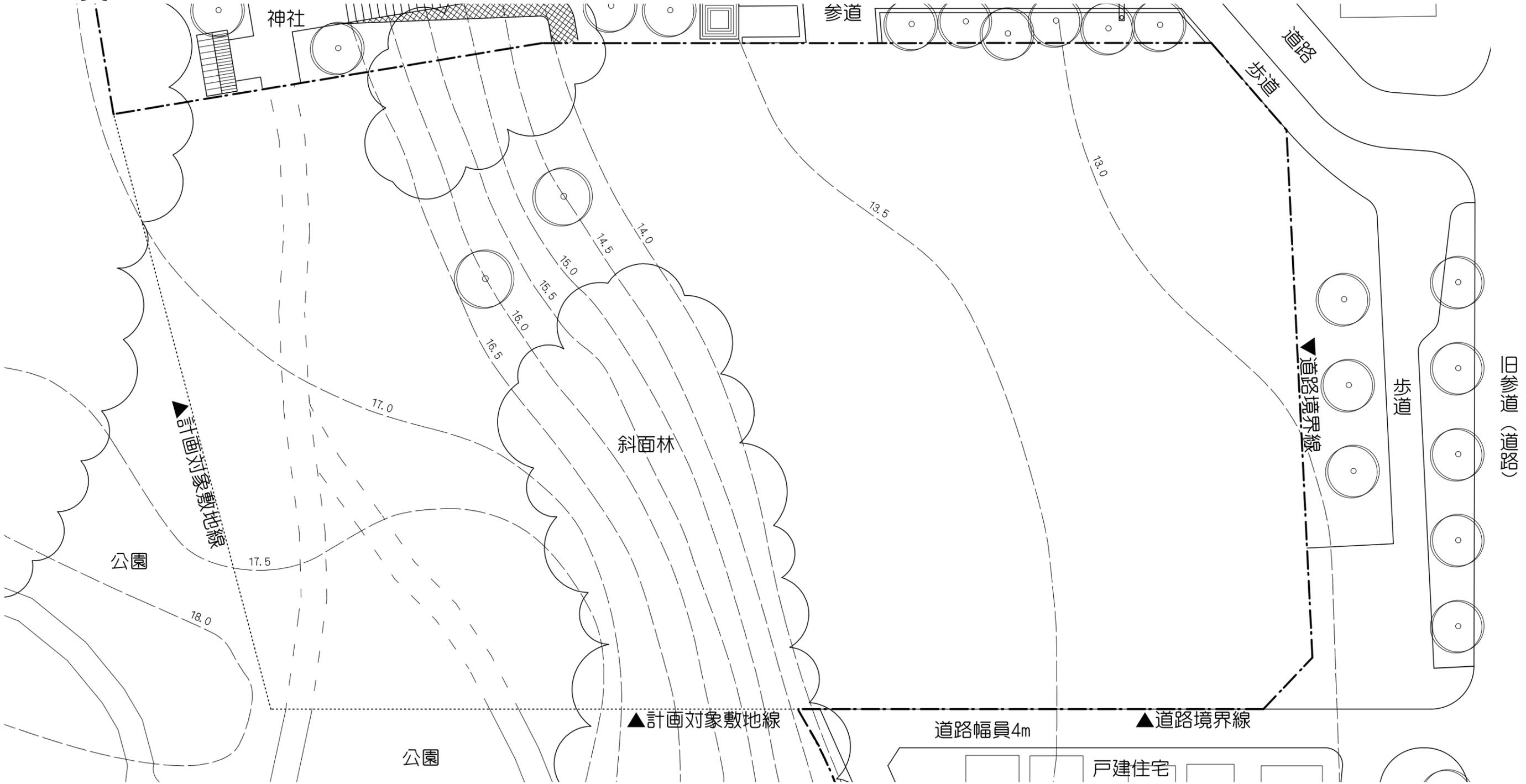


No.	1	土地利用ダイアグラム	1	RLA 資格認定試験 Registered Landscape Architect	受験 番号				
		解答用紙	1						



- 凡例
- フェンス
 - 門扉
 - 斜面の遊び場
 - 四阿
 - 主出入口

計画について配慮した事項



No. 2	敷地計画	1	RLA 資格認定試験	受験 番号			
	解答用紙						